

Heroldo de HEL 北海道エスペラント連盟

N-ro 68 1997 majo-junio

ORGANO DE
HOKKAJDA ESPERANTO-LIGO

053 苫小牧市宮の森2丁目18-18 星田 淳 方
HOKKAJDA ESPERANTO-LIGO
ĉe Atuŝi HOŜIDA
Mijanomori 2-18-18, TOMAKOMAI
053 Japanio

ENHAVO

'97 HOKKAJDA KUNLOĜADO DE ESPERANTISTOJ
(Hakodate)

'97 北海道エスペラント合宿(函館)
Masahisa IŬAI 岩井正久 2

Mesaĝo de Yoshimi Umeda al la Nova
Rondo Esperantista en Hakodate
pere de Profesoro Sergej Anikeev - mia
malnova kaj fidela amiko

梅田善美氏からのメッセージ
心から信頼する旧友セルゲイ アニケーエフ
教授の尽力する函館の新しいエスペラント
トサークル結成へ向けて 4

Raporto de '97 Hokkajda kunloĝado de
esperantistoj

'97 北海道エスペラント合宿報告
Eiĝi SATOO 佐藤英治 6

一日本エス運動の一頁一
〈愛の人ザメエンホフ〉と柳瀬正夢につ
いて

シーラカンス M (三ツ石 清) 7

Mia kriterio de Esperanta stilo
エソペラント語法の私の〈ものさし〉
Mituisi kiyosi (Celakanto) 8

Raporto de la komitata kunveno de HEL
(portempa kunveno en Hakodate)
臨時委員会報告

Raporto de la komitata kunveno de HEL
(la 6-a) 委員会報告(第6回)
Ejko ABE 阿部映子 10

Danke ricevitaĵ-受領郵便物
Acuŝi HOŜIDA 星田 淳 12

Mesaĝo de Hokkajda esperant-Ligo
Al la 45-a Kongreso de esperantistoj
en Kansajo
第45回関西大会へのメッセージ 13

Letero kaj priskribo(ESP-A HEJMPAĜO
de la Tomakomai-regiona Medigarda
Centro de la Gubernio HOKKAJDO
手紙と記事
H. JOKOJAMA 横山裕之 14

S-ino Gerda DERCS venos
オランダからゲルダさんが来道します
HEL国際部 宮沢直人 16

El redakitejo 編集部から
春の合宿は、5月4日に少し雨が降りました
が一般市民向け講座には23名の参加があり、
5日の函館観光は好天に恵まれました。
次のHELの大きな行事は道大会です。大会
テーマ「街角からの国際交流 Internacia
Amikigo en kutima Vivo」として、11月の
実施に向けて内容も少しずつ形が見えてきて
います。10頁の第6回委員会報告の中にLK
K報告も載っておりますが、次号ではもう少し
詳しくお知らせするつもりです。

それから、7月の世界大会、8月の日本大
会に参加の方は次号にぜひ記事を送ってくだ
さい。よろしくお願いいたします。

日本大会は四国で開催されるので北海道か
らは遠いですが、不在参加という方法もあり
ます。記念品の中には「エスペラント16箇
条文法を書いた丸亀うちわ」もありおもしろ
そうですね。

(Ejko ABE 阿部映子)

97北海道エスペラント合宿(函館)



岩井正久(函館)

5月連休に行われた合宿について感想を述べたい。私は初めての参加だった。しかも、テーマとして『函館にロンドをつくろう』という目標を掲げてもらい、非常にうれしかった。...が申込場所の変更などで赤字会計見込んだ開催になってしまい、始まる前からみなさんにいらない心配ご苦労をかけてしまった(教訓!)。わたしは'1982年からespを独習しはじめてから、何度か新聞等に函館エスペラント会の復活を思い募集などやってみたが、仲間ができなくさみしい思いをしていたところだった。非常にESPに熱意もった大先輩の吉田栄さんが中心に活躍していたころは、「函館エスペラント会」があって(昭和4年~)60名以上の会員名簿、会則などから大変盛んに活動的な会だったようである。北海道エスペラント大会も同じ市民会館で行われている。私が独学し始めた頃、生前の吉田栄さんには2度しか会えなかったが、初めて会いに行った時は非常に喜んで歓迎してくれ、情熱もってESP界のこと話され、私も夢中になって、いろんなこと聞いた。別れる際玄関で”こんど会う時はESPだけで話そう!”と約束され、再会の日まで会話を猛勉強して、バイクで再び会いに行った思い出がある。それから、まもなく亡くなった。sergejさんは快く講師を引き受けてくれ、合宿始まる前から、すでに極東大学ロシア語の生徒など集めてエスペラント入門講座を開いてくれた。4日は私は初級、一般公開入門講座を通して、sergejさんの講座に参加した。4日10時から12時まで初級講座はESPだけで行われた。参加者とのinterparoloもたびたびあって、特に国、民族名の言い方が丁寧に教えてもらい、普段まげこげに使っていたことが正確に改めさせられた思いがした。また、講師になった場合のĈe-metodoの教え方、普段日常会話では使わない文法の説明、品詞等語彙を知っておく必要性を感じた。昼食してから、15時まで

一般向け入門講座が同じくsergejさんの講師で、星田さんの丁寧で上手な通訳で行われた。20名近くの参加者があった。なかでも予想して以上の函館市民参加があった。Zame-nhofが生まれた環境、ESPが発表され、どのように広まっていったか、どんな組織があったか、どのように実際に使われ続けられているかが話され、簡単なinterparoloがおこなわれ終わった。直接に参加者の感想を聞きたい時間がなかったのが残念だったが、あとで電話等で感想を聞いたところ、ESPの普及思想にとっても共鳴感動したとか、非常にやさしくわかりやすいといった感想だった。参加者は現にロシア語、ハングルなど学んでいる人たちが多かった。遠く東京から2人、小樽、乙部、sergejさんの教授仲間(ロシア人女性3人)などの参加で大盛況だった。鈴木、阿部さんが受け付け、パンフ配布、書籍販売等担当してくれ、最初見込んでいた赤字会計の心配もなくなった。5日は10時にsergejさんの住んでいる元町方面に集まって、babiladoしながら、元町散策をした。これから来訪する外国人esperantistojの観光案内のためにも、日頃特訓しておくべきだなーとつくづく思った。たくさん観光客集まる明治館まで歩いて、最近流行の地ビールをのんで、再会約束して昼に解散した。今回の一般公開講座を含めた合宿で報道関係者が積極的に関心、ESPを宣伝してくれた。ESPを独学し続けている大先輩にも会うことができたり、非常に実り大きかった合宿だった。なにより”函館にロンドをつくろう!”のテーマ通り、”函館エスペラント会”復活の足掛りを作ってもらい、sergejさんをはじめHELanoj, SATanojの同志的なklopodojに感謝申し上げたい。ぜひ、このような、これ以上のアイデアを取り入れた合宿を各地方でできれば最後に提案したい。

セルゲイさんの大学内での会報も同封します。⇒



Far Eastern State University
Hakodate Branch

函館市元町14-1
事務局発行

МИЛЛИОН
ЗВЕЗД

1997年4月
第11号
Millon stars

樺東大学函館校学報

「エスペラントって何?」「何の役に立つか。」「難しいでしょう?」「使っている人はいるのか。」「英語じゃだめなの?」などとよく聞かれることがあります。そんな質問を受けるとき、論議や抽象的な話をするより、自分の体験を少しでも具体的に挙げるのが出来たら、話には実感が出るのではありませんか。

私のエスペラント語とのつき合いはもう18年近くまでにのぼっていますが、一口に「国際語」と呼ばれているこの言葉を皆様に簡単ながら紹介することが出来るものかという心配が先に出てきます。もし、いつか後でまた機会があったら詳しく説明しようと思っています。

エスペラント語は私にとって何なのだろうかと考えると先ず第一にただ趣味ではないだろうかと言うに至ります。自分から説明しようとする時も人に問われる時も明瞭なことはとっさに口に出せなくなるくらいです。エスペラントという言葉は明確には答えにくい不思議な存在で

あると思うからです。エスペラントが初めて提唱されたのは1887年のことでした。その当時はコンピューターはおろか、テレビ、ラジオ、電話さえありませんでした。エスペラントは何よりも「言葉」であるということを百年を越える実用の歴史が的確に証明しているとも言えるでしょう。日本語や英語を大切に思う人が沢山いるのと同じようにエスペラント語を「自分の言葉」として大切に思う人もかなりいると想像もつくでしょう。なぜならエスペラント語を使っていて自分のものとし、楽しいことは相当あるからです。むしろ、人生を楽しむための手段として利用させてもらっているといった方が適切くらいであります。楽しさの最高

なものとは色々な人との出会いではないでしょうか。エスペラント語を実際に使っている同士の場合、言葉や国境の壁がないので出会いの可能性の範囲が非常に広いと思うのは私だけではないでしょう。その気になれば世界は何と狭いものだろうと言えるようになったり、世界のかなりの国の人とすぐにでも知り合いでなく、本当に親しい間柄になることまであります。このようなエスペラント語の利用価値は最もすばらしい特徴であることは言うまでもないと思います。さらに情報源が豊富になることも確かです。エスペラント語のおかげで他職種の人、外国の人からも多くの情報を得ることが可能にな

るのも事実です。エスペラント語を学習し実用する過程で地球的な規模で物事を見る新しい視点を獲得します。世界の各国の政変や問題などの最中に庶民の生活がどう変わっているのか、現地の人の話を直接に聞くとよりよく理解できます。

エスペラント語を利用している

人は、現在百万人と言われており、まだこんな人間はざらにいないから同志的結束が固く助け合う気持ちが強いのです。実利的な面でのプラスは色々ありますが、その他に精神的なプラスの方がずっと大きいと思います。国際的な視野を持つこともできるし、民族差別や人類解放にも敏感になります。自分の国の言葉での翻訳のない小国の文学を読むこともできます。生涯学習の一環として自分を啓発することもできます。自分の自己実現に利用して生きがいを得ることができます。他の外国語を学ぶ時の単なる語学趣味とはひと味違った面をどのように生かすことができるかは各個人の考え方によって大きく違ってくると思われま

並みはずれの
言葉の体験

セルゲイ
アニケーエフ

Mesaĝo de Yoshimi Umeda al la Nova Rondo Esperantista en Hakodate

pere de Profesoro Sergej Anikeev - mia malnova kaj fidela amiko

Estimataj Sinjorinoj kaj Sinjoroj; Karaj Geamikoj;

Mia amiko Sergej informis min pri la debuto de la nova rondo esperantista en la urbo Hakodate, la havenurbo kaj enirejo de granda insulo Hokkaido. Tio estas treege bonvena novaĵo! Mi volonte sendas tiun ĉi mesaĝon por gratuli vin kaj samtempe deziri al vi tion bonan en via studado de Esperanto kiel internacia lingvo praktike uzebla tra tuta mondo.

Jes, Esperanto estas la lingvo treege praktika kiel vivanta homa interkomunikilo. Laŭ miaj propraj spertoj kaj travivaĵoj kiel esperantisto en la lastaj kvardek-kvin jaroj, mi klare tion povas pruvi montrante al vi multege da ekzemploj, sed mi ne faros tion per tiu ĉi fojo, atendante tamen la alian okazon kiam mi renkontos vin vizaĝ-al-vizaĝe en proksima estonteco.

Mi tamen substrekas al vi nur unu fakton, ke mi jam vizitadis pli ol 85 (sesdek-kvin) landojn kaj regionojn sur la terĝlobo, dum la lastaj tridek-kvin jaroj, kaj dank' al la lingvo Esperanto kaj precipe per la granda helpo de esperanto-parolantoj en ĉiuj lokoj, mi neniam spertis malfacilaĵon nek malagrabraĵon.

Kiam do vi komencos praktike uzi Esperanton, post serioza lernado, vi mem povos tion ĉi konstati renkontante la homojn en diversaj partoj de la mondo.

Mia amiko Sergej certe vin instigos pri la lernado kaj pri posta utiliĝo de Esperanto. Mi nur deziras al vi bonan ŝancon kaj agrablan rondon familian.

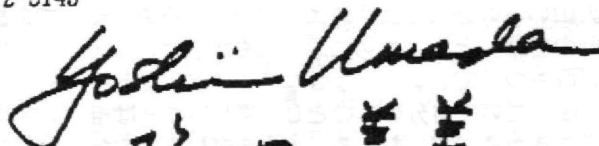
Parenteze, la fondiĝo de la nova rondo esperantista en Hakodate estas aparte plezuriga al mi, ĉar mi naskiĝis en via urbo, precize dirite en la varmfontana urbeto Yunokawa. Mi ja deziras reveni al mia naskloko por vin ĉiujn renkonti iam estonte.

Tiusence mi pretas esti unu el viaj novaj geamikoj. Dankon pro via atenta aŭskultado.

la 4-an de majo, 1997

Yoshimi Umeda - Eksa Vicprezidanto de Universala Esperanto-Asocio kaj nuna Konsilanto de
Japana Esperanto-Instituto

Mia adreso: Nishi-Koiwa 1-19-33, Edogawa-ku, Tokyo 133 Japanio
Telefono kaj Fakso: (03) 3872-5143


梅田善美

133 東京都江戸川区西小岩 1-19-33

心から信頼する旧友セルゲイ アニケーエフ教授の尽力する 函館の新しいエスペラントサークル結成へむけて

エスペラント入門講座参加者の皆さん、エスペラント函館合宿に参加している友人の皆さん、私の友人であるセルゲイが北海道の玄関、函館でエスペラントの新しいサークル結成のために初舞台をかざると聞きました。なんとすばらしいニュースでしょう！皆さんへ心からのお祝いと、あわせて全世界で実用しうる国際語エスペラントの学習が大きな成果をあげることを願ってこのメッセージをおくります。

まことに、エスペラントは人々の生きたコミュニケーション手段としてたいへん役に立つ言語です。私の45年間にわたるエスペランチストとしての無数の経験や体験をとうして得たことをお話しするのは、遠くない将来、皆さんと直接お会いできた時にしたいと思います。

ただ一つだけ述べておきたいのは、私がこの35年間に世界65ヶ国を訪問し、その際エスペラント語と各地のたいへん親切なエスペランチストのおかげでまったく不便や不快を感じる事がなかったことです。

真剣な学習の後、エスペラントを実際に使いはじめたとき、世界中の様々な人々と会うことによって皆さん自身がこのことを実感することでしょう。

私の友人セルゲイは、必ずや、皆さんがエスペラントを学びまたそれを実際に使う際に大きな助けとなってくれるでしょう。私はただ皆さんが良い機会と家族的な素敵なサークルを持たれることを期待するだけです。

余談かもしれませんが、私にとって函館に新たにエスペラントサークルができることは特別な感慨があります。実は、私が生まれたのは函館それも温泉町、湯の川なのです。いつか皆さんとお会いするために、私のふるさとを訪ねる日がやってくることを心から願っています。

こうした意味でも、私は皆さんの新しいそして親しい友人となることを確信しています。皆さんのご静聴ありがとうございます。

1997年5月4日

元世界エスペラント協会 副会長
日本エスペラント学会 顧問

梅田 善美

133 東京都江戸川区西小岩 1-19-33 TEL/FAX 03-3672-5143

宿泊2泊(5/3,4)	11名(会員9名, 一般2名)
1泊(又は泊なし)	7名(会員6名, 一般1名)
5/3夜 Bankedo	15名
5/4午前 初級・中級	12名
「プラハ宣言」を読む学習会	3名
午後 一般市民向け講座	23名
学習会「Kiel vi vivis?」	7名
夜 Bankedo	12名
5/5午前 市内観光	11名

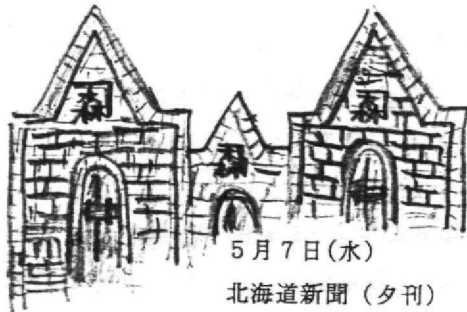


エスプラント
で国際交流を
入門講座始まる

「いろいろな国の人と対等な国際交流してみませんか」と、北海道エスプラント連盟が四日、市民会館会議室でエスプラント入門講座「写真」を開いた。

世界エスプラント協会代表委員のセルゲイ・アニケエフ氏を講師に招きエス

ベラント(共通国際語)の「話しやすく聞きやすい」といった特徴や意味などを話した。日本語への通訳は同連盟の星田淳会長がした。会場には約二十人の参加者が訪れ、ロシア語、英語など多数の外国語を整理して成り立つエスプラントを真剣に聞いていた。今後は月に一、二度講座を開き、エスプラントの普及に努める予定。



5月7日(水)
北海道新聞(夕刊)
地域情報版「函館新聞」⇒

収支報告

参加費(6,000x11=66,000 2,000x7=14,000)	80,000
Bankedo差額収入(SATのBankedo差額収入を含む)	18,615
Tシャツ売上寄付(特別提供 500x5=)	2,500
その他寄付	800
書籍売上利益収入(JEIからの書籍21,487 HBL及び宮沢氏売上5,300)26,787	
収入合計	128,702
宿泊費	97,200
会場費(市民会館)	7,200
講師料(セルゲイ氏へ)	5,000
コピー代	610
参加案内発送費	9,680
贈呈用書籍代(函館エスグループ「地球時代のことはエスプラント」700x4冊)	2,800
書籍代・宮沢	2,250
支出合計	124,740



収支差額 3,962

事務局長 佐藤英治 Eigi SATOO

—日本エス運動の一頁—

〈愛の人ザメンホフ〉と柳瀬正夢について
—古いエス運動家の諸兄姉に捧げる—

シーラカンス M

東京大学出版会のPR誌UP（5月号14頁）に、〈大正末から昭和初めにかけて最大のイメージメーカーといえは柳瀬正夢をおいて他にいない〉の柳瀬正夢（1900—1945）、17才で〈院展〉に入選した油絵の天才画家、〈日本のグロス、柳瀬正夢が、叢文閣版〈愛の人ザメンホフ〉の装丁をした〉（1920）と書いてある。

この国際語の創始者の伝記が大正12年、小坂狷二先生の愛弟子、松崎克己の訳でJ E Iから出版された。15才で学習を始めた私には、まだこの原書〈Vivo de Zamenhof〉を読む力がなく、この叢文閣本でザメンホフを知り深く感激した。これで Esp運動者として歩むその後の私の人生の方向が決まった。

そのころ私は、鉄道省工作局車両課の小坂狷二の部屋の少年鉄道員であった。17才ごろ非合法の全協（共産党指導下の日本労働組合全国協議会、運輸労組、鉄道省分会）の分会員になった。共産党の活版の大衆紙〈第二無産者新聞〉の配布を受けた。当時の田中義一—サーベル首相を風刺する政治漫画などにペンを振る柳瀬の画に喝采を送ったものだ。

この柳瀬の漫画には署名（印章）の代わりにネジの頭を押しつけた跡を印章に使っている。

昭和5年ごろ。この〈無新〉の社会風刺漫画は、ゴルキー〈私の大学〉的に表現すると、三ツ石的〈私の大学〉の政治経済の教科書であった。柳瀬の漫画は資本主義社会の矛盾に私の眼を開かせた。

叢文閣は、民主的進歩的左翼的出版で知られ、小坂狷二、秋田雨雀共著〈エスペラント独習〉を出版した。まだ〈エスペラント捷径〉の出る前で当時は〈猫も杓子もエスペラントを学ぶ〉時勢で、大いに読まれた。J E Iの書記、岡本好次（旧版エス辞典編者）か、五六理事の依頼で三ツ石が新小川町の学会から麴町の叢文閣まで徒歩で〈独習〉を20冊買いに行った。重かった。

プロレタリア文化連盟加盟、日本プロエス同盟の学習誌〈KAMARADO〉の表紙を柳瀬が書いている。これはプロエス同盟教育部長中垣虎児

郎とプロ美術同盟の柳瀬の友達関係からであった。

〈後日談〉戦後すぐ小坂狷二がJ E I（エス学会）の会長、J E A（エス協会）会長は舞台芸術学院院長、秋田雨雀で、中垣と19才年下の私がJ E Aの常任委員に、さらに私は事務局長も務めた。J E Aの綱領草案は私が起草した。事務所はJ E Iに置いた。実はこの2つの全国組織の舵取りは、J E Iの三宅史平理事とJ E Aの大島義夫常任委員の2人でこの2人の〈同床異夢〉的協力の工作形態であり、両先生は名誉ある〈緑の運動の旗印〉の2本の翻る旗であった。私は雑務の書記に過ぎなかった。

柳瀬は、中垣虎児郎（プロエス講座の著者の一人、戦後、RO誌の編集もした）とは画家同士で仲良しであった。中垣は〈柳瀬がどうした、こうした〉とよく話した。敗戦の年5月、東京、新宿駅で米軍の空爆で死去した。

敗戦後、（レッド・ページで）鉄道博物館企画係から追放、J E Aも退任させられ、私は昭和28年ごろ、道路舗装人夫として東京、井の頭公園の近くの洋裁店の前で作業した。この洋裁店主は柳瀬夫人と分かり、拙宅に同居の中垣に知らせて、共に夫人を訪ねた。

追記：

- a 柳瀬の画業は復刻版〈柳瀬正夢デッサン集〉岩崎美術社で見られる。
- b 〈Vivo de Zamenhof〉の訳には、別に角川書店〈世界の間像〉シリーズ第16巻〈ザメンホフ〉藤本達生の訳がある。
- c 訳書ではないが啄木の友、短歌作家、土岐善麿著〈ひとりと世界〉—ザメンホフの生涯—（昭和23年刊）は好読物である。エス運動史の新人研究家にこの3書の一読を奨める。

付記：〈エス〉は無論エスペラントの略だが、Esperantoを、エスと略称するのは好きでないが。

（97-06-04、三ツ石 清）

エスペラント語法の私のくものさし>

Mia kriterio de Esperanta stilo

Mituisi Kiyosi (Celakanto)

私が他者の文を添削する、また自分の文章を検討するときに、エスペラント語法上のくものさし>として使用してる文献を示す。(20年も前に通信教育協会を独力で運営、毎日、添削で明け暮れし、自分の勉強にもなった。)私はザメンホフが無条件に好きだ。私自信のエスペラント思想の強化に読んだ本も付記する。

Zamenhofa Zkzemplaro kompl. Nomura Rihej

野村理兵衛編、一番頼りにできる文献

Plena Ilustrita Vortaro komp G. Waringhien

旧版のP V <5版> (いつもポケットに) と共に私の先生だ。

Plena Analiza Gramatiko de

Kaloscay k Waringhien

Ekzercaro de Zamenhof

16才で学習を始めて以来、84才の今もよく開く。

エスペラントの正統語法の神髄、。

Plena Gramatiko de Esperanto (16 Reguloj)

<文法規則は唯の16条しかない>なんて、ザメンホフのPR戦術。、本質的には100ほどの規則がある。それでも天才的な簡潔な文法だ。

Lingvaj Respondoj

教室でザメンホフ先生の講義を聴いてるようだ。熟読してほしい。

Nova Fundamenta Krestomatio kompl. W. Auld

Lingvo kaj Vivo G. Waringhien

エスペラント教の聖書とも考えてる文献。ボロボロになるまで読んだ。

Eseoj G. Waringhien

私は30年前<随筆集>を塾読し、一介の korpa laboristo から、ひとかどの教養人になった気分になる。著者に手紙を出す。返事を頂く、感激。この巨人は終生SAT会員であった。私は日本の古いSAT会員。

(romano, novelo, letero)

Homoj sur la tero Stellan Engholm

過去に7回読んだ。本作品は1930年代に<Literatura Mondo>の文芸コンクール第一回受賞作品で。エス文学史で有名。ザメンホフのスタイルが好きでない人(案外多い)は、読んでみて下さい。

Marta trad. L.L. Zamenhof

野村理兵衛氏からじかに聴いた話”マルタはザメンホフの晩年の円熟期の仕事である。ザメンホフを学ぶに最良書である”。私には<Fabeloj de Andersen>を読む方が面白いが。マルタを奨める。

Konkordanco de Marta laboris M. Kidosaki

マルタ用語索引： 城戸崎益敏編、川崎直一 清水孝一協力

33 Rakontoj

(Stafeto)

これを読まずしてエスペラント文学史を語るなかれ

Letero al Borovko de Zamenhof

(pri la deveno de Esperanto)

原文はロシア語。後に翻訳文をザメンホフが読み、良しとした。

Leteroj de Zamenhof (vol. 1,2) kompl. Waringhien

<ザメンホフ書簡集> (第一巻105頁)にあるの<Letero al Michaux> (21-feb-95), 第一回世界大会組織者、ミショーへの手紙、パリの大会を前に書いた手紙には、まだ幼児期のエスペラント(ユダヤ人が考案した空想的な世界語)をキリスト教的ヨーロッパ社会の偏見から護って育てていく為のザメンホフの戦術的考慮(何故に、悲願の人類人主義思想を敢えてE s p運動から分離する)をした経緯が書かれている。

Leteroj de Lanti kompl. Waringhien

K - d o ランテイの手紙。私の宝物だ。

Kiel akvo del' rivero R, Schwartz

文字通り大河小説、フランス人愛国者の対ナチス、対独ゲリラ闘争を背景にした友情と愛、愛国者の母、子がついに邂逅する物語。

Cina Antologio vol 1.2

Noveloj de Lusin

ヨーロッパの同志達の語法ばかりでなく、中国の同志の手堅い語法も学ぶために読む。魯迅の<故郷>は、国語教科書にある。

こうした原書の各頁には名文、名句、真似したい表現にアンダーラインを付けた。余白には書き込みをしておいたので、参照しやすい。

(辞典、参考書)

Naulingva Etimologia Leksikono

インド、ヨーロッパ語系の各国語の単語の類似性がわかる

Dictionary of Word Origins (Asian edition, Maruzen)

ヨーロッパ語の語源がわかる。丸善 発行

<英文を書くための辞書>、北星堂

編者は日本人を妻にもつイギリス人言語学者。

エスペラント合成語辞典 アカデミー会員、川崎直一 編

エスペラント日常用語辞典 野村理兵衛編

地名、人名小辞典(英語編)、研究社

ドイツ語固有名詞小辞典 研究社

Esperanto-English Dictionary J C Wells

Comprehensive English-Esperanto Dictionary

Esperanto-English Dictionary C, Butler

Websters' New World Dictionary

米語辞典、語源についての記述が役に立つ

エスペラント小辞典(大学書林) 三宅史平 編 k t p

<#> : 特に使用の頻度が高い文献を示す。

(97-05-19 三ツ石 清 記)

臨時委員会報告

Raporto de komitata kunveno de HEL
(portempa kunveno en Hakodate)

[日時] 5月4日(金)

[場所] 函館営林支局保養所 有鄰荘

[出席者] 合宿参加者有志

[議事内容]

1 函館に Rond はつくれるか

函館市の岩井さん、乙部町の麓さんを中心に、Rond 結成に向けて一歩前進。翌日の函館観光で地ビールを飲みながら再び話しがはずみ、セルゲイ・アニケエフさんが HEL 加入を表明したことでさらに Rond 結成の勢いが高まった。



第6回委員会報告

Raporto de la 6-a komitata kunveno de HEL

[日時] 6月13日(金) 午後6時10分～8時半

[場所] 札幌駅西側パセオ1階レストラン「しゅがあぼっと」

[出席者] 星田 淳、サトウエイジ、後藤 義治
阿部 映子、鈴木佳子

[議事内容]

*事務局報告

1 プラハ宣言のチラシはこれまで1,475枚(19回)配布。今後も市民グループ等の集まる場所で配布を予定。

プラハ宣言のアイヌ語訳の見通しは今のところたっていないが検討したい。

2 地方会活動

函館に地方会(Rond)設立の気運。(2頁及び上記「臨時委員会報告」参照)

地方でのエスペラント入門講座は、函館(極東大学函館校:セルゲイ・アニケエフ)、苫小牧(苫小牧市民会館:星田淳)、札幌(カデル2・7:宮岸忠孝)で行われている。

北大祭での北大グループの活動については、事務局では把握しておらず不明。

3 会員拡大状況は、前回の道大会以後新会員6名加入。元会員・HELに加入していない道内のJEI会員・函館合宿一般参加者等へのHEL加入働きかけを積極的に行っていく。

4 函館での5月合宿報告(6頁参照)

5 次回HEL主催の学習会は、LKKと協力して大会直前(11月1日～6日)にエスペラント入門学習会を開催の予定。

6 道大会のチラシとポスターを作成したい。また、これまでも道大会会場申込等で立替払いを行っており今後も大会参加費等の収入がなされる前に支払が必要となる見込なので、HEL会計から事務局に仮払い願えないだろうか。～参加委員了承、但し今回委員会に会計担当委員が出席していないため、後日改めて会長、事務局、会計担当委員が話し合うこととする。

7 7月下旬、オランダよりゲルダさん来道(16頁参照)。

*LKK 報告

1 後援依頼と承認状況:66号18頁及び67号16頁記載の8団体に加え、14団体から承認の回答を受けた。(財)北海道生涯学習協会、UHB北海道文化放送、HBC北海道放送、(株)札幌コミュニティ放送局「ラジオカロスサッポロ」、朝日新聞北海道支社、北海道タイムス社、HTB北海道テレビ、毎日新聞社北海道支社、読売新聞社北海道支社、

北海道新聞社、FMノースウェーブ、FM北海道、NHK札幌放送局、TVh. テレビ北海道(株) (承認回答の日付順)

- 2 第61回北海道エスペラント大会プログラムは、66号16頁～18頁に記載のとおり11月1日～6日大会直前エスペラント教室(入門学習会)、11月7日青年エスペラント交流会、11月8日社会見学・北海道エスペラント連盟総会、11月9日エスペラント祭となっており、エスペラント祭への市民グループ参加を働きかけている。

なお、北海道の市民団体のネットワークマガジン「N●DE」に第61回北海道エスペラント大会の案内が載る予定。(隔月発行、6月10日発売予定)

- 3 東京の菊島和子さん(s-ino Krizantemo)からボスニア・ヘルツェゴビナとクロアチアの戦争被災地訪問・報告の講演・展示をさせていただきますという要望があり、エスペラント祭で講演会を開催し、道大会期間にあわせて地下街オーロラタウンで展示会を開くことを検討。

*次回(第7回)委員会 8月20日(水)午後6時～ 札幌駅西側パセオ1階レストラン「しゅがあぼっと」(☎011-242-5130)

議事内容

LKK報告及び第61回北海道大会の内容検討、[H de HEL N-ro 69]の編集、その他委員以外の方の参加歓迎。

*[H de HEL N-ro 69]の原稿締切は8月15日、

●エスペラント語受講生を募集 札幌エスペラント会はエスペラント語教室の受講生を募集している。初回は七日午後一時半からで、八月までの毎週土曜日(全十三回)に開講、会場はいずれも中央区北二西七、かてる2・7。受講料

は三千五百円、定員十八人。申し込み、問い合わせは宮岸さん ☎582・3122へ。

北海道新聞・札幌版
6月5日(木)夕刊

エスペラントTシャツ
S, M, Lサイズ
1枚1,200円(含送料)



代金は、図書券又はテレホンカード(100円単円単位は切手でも可)で。代金同封で申込み、はがき申込みでTシャツ受領後に代金送付のどちらでもいいです。

阿部映子(住所は16頁記載の編集部と同じ)まで申込み願います。

*「国際語エスペラント運動に関するプラハ宣言」
賛同署名キャンペーンにご参加ください。

(1997.03.11, JEI) 趣意書、宣言文、署名簿。

*Hokkaidô Rómazi Kenkyû No. 92 (復刊66)

北海道ローマ字研究会発行, Hs. 9n. 4gt. 15nt.

B5X 8 頁のうち約 2 頁がローマ字。会費納入者に
三ツ石清 の名がある。

*VERDA MONTETO, Redaktita de fukumoto hiro-
tsugu (dumonata) N-ro 93, WAKAYAMA, Marto,
Aprilo 1997; 227X182mm 8 頁のなかに日-E 対訳
の LA MALGRANDA SORĈISTINO が 2 頁。これは北
海道にも来たことがある S-ino Yoshie Kleemann
が E 訳したもの。ベトナム訪問記 (その 2) はメ
コンデルタの船旅。「あるエスペランティストの
回想 (田中正美)」に出る Fedorĉak は相沢さん
「北海道 E 運動史」にも登場している。

*La Movado N-ro 554, apr. 1997, B5 版 16 頁の内
エスペラント文 2 頁半。

*VERDA MONTETO, N-ro 94, WAKAYAMA, Majo,
Junio 1997; 227X182mm 8 頁。連載ものが面白い。

「図書館にエスペラントの本を！」が巻頭文。

*La Movado N-ro 555, maj. 1997, B5 版 20 頁の内
エスペラント文 3 頁。「エスペラントとコンピュ
ータ」用語編 (ほったひろひこ) は E-日対訳の
単語帳、3 回連載になる。

*Mejlstono N-ro 141 '97 MAJO, 仙台 E 会
B5X 10 頁の内エスペラント文 4 頁。齊藤ツメさん
のタンザニア訪問記、タイプミスを校正しながら

読むと面白い。

*LA TAMTAMO: 第 280 号 (1997 年 5 月号)、(JER =
横浜エスペラント会)、A5 X 8 頁、日本文。ウクラ
イナからよんだ女子学生ユリアの案内記が連載中。

*Novajoj Tamtamas: n-ro 125, majo 1997,
A5 X 8 頁、全文エスペラント (JER)。

* (エスペラント通信講座) 受講生通信: 第 52 号
1997-05-06, 沼津エスペラント会。B5 X 8 頁、大
部分日本語。学習案内、受講生、修了生の便り等。
通信講座ご案内 (B5 X 4 頁) も同封。

*センター通信: 1997 年 5 月 12 日名古屋エスペ
ラントセンター発行 N-ro 197, B5X 12 頁、日本文。
「木村護郎氏講演会」の内容紹介。ソルブ語を例
に、少数言語の現象と未来について。

*NOVA VOJO: 1997.5 (N-ro 319 majo), 大本エ
スペラント普及会, A5 X 32 頁、内エスペラント文
6 頁。

*事務所開設のご案内: 日本共産党衆議院議員北
海道事務所より。はて? 政党から文書が来るの
は、或いはこれが初めて?

*1998 年版「北海道年鑑」(企業団体名簿編) 作
成のため資料提供のお願い: 北海道新聞社
「変更なし」として返答済み。

*NOVA VOJO: 1997.6 (N-ro 319 junio), 大本エ
スペラント普及会, A5 X 36 頁、内エスペラント文
8 頁。「ポーランドでの貴重な体験」として、今
札幌で寿司修行中の谷口敦彦さんの文 (写真入り)
が出ている。



(Hakodate)

Mesaĝo de Hokkajda Esperanto-Ligo
Al la 45-a Kongreso de Esperantistoj
en Kansajo

Karaj gesamideanoj en Kansajo,

Okaze de via 45-a Kongreso, ni, anoj de Hokkajda Esperanto-Ligo, tre ĝojas sendi nian plej varman kaj samideanan saluton, kaj samtempe deziras al vi plenan sukceson de la kongreso.

Via kongreso imponas nin pro ĝiaj buntaj programeroj kun riĉa enhavo.

Tia alta nivelo de via kongreso ja estas la frukto de viaj agadoj konstante progresantaj. Ni sentas, ke ni lernu multon de via bone organizita laboro.

Ni antaŭvidas, ke vi havos grandan ĝuon kaj rikolton en la kongreso, kaj akiros pli da energio por la perspektivo de nia afero al la Nova Jarcento.

Samideane via



HOŠIDA Acusi
Prezidanto de
Hokkajda Esperanto-Ligo

新聞「苫小牧民報」の「働いてちょっぴり笑しんで—先輩たちの物語」に、星田会長の話が載りました。5月7・8・9・12・13・14日と6回にわたり『エスペラントで学ぶ星田 淳さん』として、これまでの人生とエスペラントとの出会いや体験がエスペラントについての説明もまじえて、聞き語りの形式でまとめられています。

「今回は記者が取材に来、帰って記事を書くので、真意が伝わりにくいところあり。1度原稿を見せてもらい、だいぶ直したが、やはりしっくりこないところはあります。考えると今までは自分で書いた記事だったから、不満が出るとすると自分が反省することになるだけだった。今度、我々が人に話すことがどう受け取られるか、その違いがわかる感じでした。」との星田さんの感想でした。

エド・ハビルへの熱いラブコール

— インターネットを始めよう —

松本 徹

H. JOKOJAMA
横山裕之

エド・ハビル(Adrian Havill)は、聡明なアメリカの若者である。去年の秋の初等講習会の二日目に、突然講習会場に現れて講師の俺を当惑させ、同時に俺の士気を高揚させてくれた男である。そうだ、「男」なのだ。俺は決してホモではない。なのにラブコールを送るのは、彼は来日二年にして日本語の読み書き、しゃべりができるほど優秀なだけでなく、アメリカの大学でコンピュータを専攻し、今は大阪のインターネットの会社に勤めていて、さらに加えて、支配言語の英語を母国語としながらエスペラント語を勉強しようとするほどの思想の高さを持っている故なのだ。

ところで、俺は過去二十年間、汎用コンピュータで飯を食ってきた。コンピュータの世界の動きは速い。ここ数年で、オモチャと考えられていたパソコンが汎用コンピュータを喰い、人類社会を根底から変えようとしている。未来学者のアルヴィン・トフラーが二十年近く前に書いた「第三の波」、すなわち農業革命、産業革命、そして人類史における第三の波、情報革命が今、始まるようとしている。十年来使ってきた職場のコンピュータも、この一年をかけて一新し、汎用コンピュータとパソコンの混合システムに変更した。新しいシステムの機能の一部として、役所の情報公開を実現するためのソフトも作成している。当世流行のインターネット用ホームページを視野に入れて設計している。政治的条件から各家庭に届く

にはまだ少し時間がかかるが、ぎりぎりの線まで公開するつもりだ。

このコンピュータ・システムには PROSPERIO というエスペラント語のニックネームを付けている。"la PROCesa Sistema Perkomputera de Enmedio Rilata Informaro de Osaka" の省略形だ。エスペラント語を用いた電算システムは他にはないとずっと信じていた。ところがである。先日、啞然とした。苫小牧だ。北海道庁の苫小牧地方環境監視センターなのだ、おそろしいことをやってくれるのは、ここの環境情報システムを設計したのは誰だ? 何と、ホームページは日本語、英語、ロシア語(?)、中国語、アイヌ語、それにエスペラント語版まであるではないか!!

俺の日本人の友達に古美術商をやっている、いつも何か新しくておもしろいことをやろうと考えている男がいる。スカイダイビング、パラグライディングに凝り、とうとうアメリカで飛行機の免許証まで取ってきた男だ。彼は最近、「これからの世の中はパソコンだ」と考えた途端、インターネットのホームページを作ってしまった。好評でパソコン雑誌の取材が絶えないと言う。彼のホームページへのアクセス件数は月に30万件にも上ると聞いた。ただで宣伝でき、労せずして商品が売れるのだ。

今年になって KLEG の委員の一人に、KLEG によるエスペラントのホームページの開設を提案した。その後、MOV

-6-

HEL 編集部へ

ごぶさたしています。TES (苫小牧エスペラント会) の横山です。先日の会で星田先生から、大阪エスペラント会誌の La VOĈO (N-ro 4 Apr., 1997) の中に苫小牧地方環境監視センターのエスペラントホームページの記事があったのでコピーを送付して Heroldo de HEL の記事にしてもらってはと提案があったので送付します。

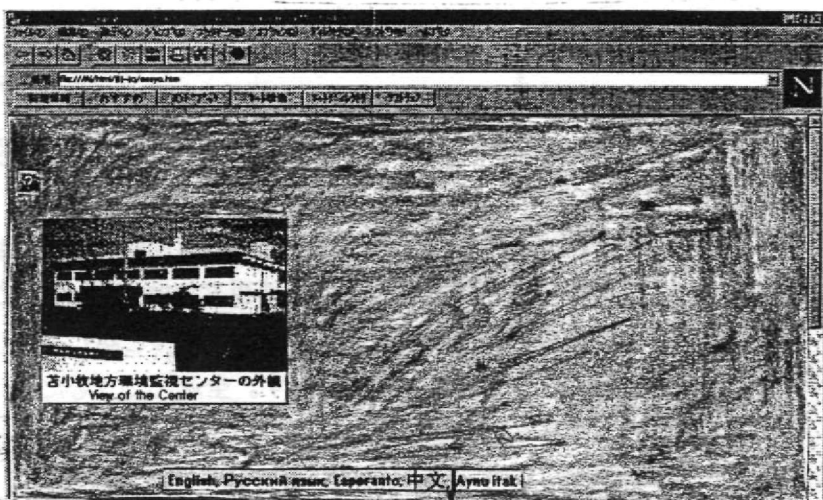
なお、記事には書いていませんが、当センターのエスペラントホームページの URL は <http://www.tomakomai.or.jp/tomakan/essyo.htm> です。いままでは同好会としてやってましたが、5月中旬か6月くらいからは、所の業務として正式に実施していきます。

ADOで、KLEGにその計画のあることを知った。日本のエスペラント会は老人ばかりで、化石化するのではないかと常々危惧していたが、少し安心した。ホームページの設計、開発を行うだけのスタッフは関西にもいるはずだ。

大阪エスペラント会(OES)はどうか? 俺はパソコンのことはまだ良くわかっていない。でも、OESでは我々有志で、すでにパソコン通信による機関誌の一部の編集を行っており、さらに将来には、通信による一斉配信をもくろんでいる。一斉配信は技術的には今だって可能だ。でもこれはOESに閉じられていて、外には開かれていない。そこで、や

はりホームページだ。もしもエスペラント会以外の人達の30万人が、毎月OESのホームページを見ることになったら、その宣伝効果は計り知れない。会員だけに閉じられたテレフォン・セルボなんて全く無力だ。インターネットで遊んでいるのは若者だ。エスペラントの将来を考えると、若者にこそ夢があり、希望がある。日本のエスペラント会を老人ホームにしないための道具、その強力な一つがホームページだ。そして、OESでそれができるのはエド・ハビル、君だ!

最後に、よくぞやってくれた北海道庁のエスペラント版ホームページの一部を紹介しておこう。



SALUTON, karaj geamikoj! Cxi tiu hejmpagxo prezentas eksplikon de la Tomakomai-regiona Medigarda Centro de la Gubernio HOKKAJDO. Kaj cxi tiu pagxo alligas al alia TTT servujo rilatanta al media aferoj. Se vi interesigxus pri cxi tiu pagxo, bonvolu sendi la e-posxton kun sekva adreso al ni. Elkore atendas vian opinion kaj vian impreson.
e-posxta adreso de la interreta klubo en la Tomakomai-regiona Medigarda Centro ##
e-posxto de la klubo : tomakan@ains.tomakomai.or.jp

-7-

(4月26日受け取ったので、前号には間に合わず遅くなってしまいました。

このホームページに関しては、66号14頁にも記事が載っています。

次頁にあるとおり、ロシア語とエスペラントはS-ro Sergej Anikejev, 英語はS-ino Rowena MacGillと、昨年の北海道大会に参加した2名のエスペランチストの協力によってできたものです。

編集部 阿部)

また、ちょっと古い話になりますが、エスペラントに関するインターネットニュースに以下の記事を投稿しました。(97年2月21日)(soc.culture.esperantoに投稿)

Karaj retanoj !

Bonvolu viziti nian TTT-hejmpaĝon kompilitan de Studgrupo de Interreto en Tomakomai-regiona Medigarda Centro de Gubernio Hokkajdo, Japanio.

Ankaŭ plurlingvajn paĝojn kaj parolajn klarigojn ni havas.

Vi povas aŭskulti voĉajn klarigojn: esperantan kaj rusan de S-ro Sergej Anikejev, rusoj, anglalingvan de S-ino Rowena MacGill, novzelandano.

Ni povis aranĝi nian TTT dank'al la kunlaboro de tiuj du geesperantistoj.

Bonvolu viziti nin, donu viajn konsilojn kaj kritikojn, ni petas, al jena retadreso.

<tomakan @ ains.tomakomai.or.jp>

* * * * * ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ * * * * *

オランダからゲルダさん(s-ino Gerda DERCS)が来道します。

7月16日(水)~30日(水)

16日から21日の朝までは札幌エスペラント会で会員宅宿泊、札幌市内観光などでお世話をしてくれます。21日夜から30日青森へ向かうまで北海道連盟でお世話をし、この機会におおいにエスペラントを使ってみようと考えています。ゲルダさんと話しをする集まりを準備したり、宿泊を引き受けてくれる方をさがしています。全道どこでもたとえ一人の方がお話をしたいという場合でも日程の調整がつけば訪問したいと思います。車の運転と必要であれば通訳は国際部 宮沢が行います。気軽に問い合わせてください。

ゲルダさんは50歳の女性、オランダで幼稚園の先生をしています。エスペラントを使って世界各地を訪れています。

問合せ： 連盟国際部 宮沢直人 TEL/FAX 011-717-4189 001 札幌市北区麻生町 1-3-13

Heroldo de HEL
第68号(1997.7.5)
北海道エスペラント連盟機関紙
編集部
〒001 札幌市北区北12西1パークMS602
阿部映子気付(電)011-756-2291
郵便振替口座
02700-6-17075
北海道エスペラント連盟